

病理専門医制度運営委員会だより（第14号）

1. 専門医制度について：

日本専門医機構による専門医養成プログラムも平成30年4月より全領域で正式に開始されました。病理領域でも113名の専攻医を採用することになりました。各プログラムの責任者をはじめ、指導に当たる先生方は、3年後に専攻医の皆様が無事に専門医試験を受験できるように、適切なご指導をお願いします。病理学会では昨年度からプログラム方式で専攻医の採用・研修を開始しています。以前より研修手帳（病理専門医研修ファイル）を利用した研修をしていただいておりますが、プログラム制度では年度ごとの評価も必要ですので、確実に「病理専門医研修ファイル」に評価の記載をお願いします。なお、評価方法についてはカリキュラム制で採用された方も同様、年度ごとの評価をお願いします。なお、カリキュラム制度はすでに他の基本領域の専門医資格（内科の場合は認定医も含む）所有者に対して、つまり病理専門医資格とのダブルボードを目指す方が対象であることを改めて認識していただきたいと思います。また緊急避難的にカリキュラム制を用いることもでき、緊急避難的というのは、妊娠・出産・育児・介護・本人の疾病・大災害などによる研修施設の損壊などを想定しています。

次年度採用予定者のスケジュールですが、本年度採用者より少し早めになっています。プログラムの新規申請や変更の手続きは平成30年4月末日まで、5月1日から5月末日までプログラムの一次審査が行われ、6月1日から8月末日まで都道府県での調整と二次審査が行われます。その結果を受けて9月1日から専攻医の募集が開始される予定となっています。昨年より1か月ほど早まっていますのでご注意ください。各プログラムの定員は、主に剖検数と指導医数から算定されます。数値に大きな変化がある場合は、プログラム責任者は早めに対応をお願いします。なお、定員については平成30年度と同様の柔軟な判断をさせていただく予定です。すなわち、各学年の定員に対する採用人数の考え方以外に、プログラム全体の定員からの採用人数も考慮します。例えば、各学年2名の定員のプログラムに4名の応募があったと仮定します。学年単位で考えると、2名は遠慮していただくこととなりますが、3年間のプログラム全体では2名×3年の6名が定員となるため、全員の採用が可能となります。ただし、この場合はあとの2年間は合計の定員が6-4=2名になります。なお、現在の専門医機構の専攻医募集枠では、定員オーバーの登録はできない仕組みになっていますので、学年単位の定員超過採用の場合は、まず病理学会事務局に連絡してください。連絡が入りましたら病理学会から専門医機構にお願いして、定員超過分も採用できるようにします。カリキュラム制度の方はプログラムの定員外ではありますが、

施設全体での教育資源を考慮して採用していただく必要はあると考えています。

2. 専門医試験の会場について

前号、前々号のお知らせと同じですが、改めてもう一度説明させていただきます。専門医試験の会場は、従来2年単位で同じ支部の会場を用いてきました。また関東支部・中部支部・近畿支部でローテートし、最寄りの新幹線駅からのアクセスが良好な会場を選択してきました。平成29年度（2017年）は順番により近畿支部（神戸大学）で行われました。本来であれば平成30年度も近畿支部で行われるのですが、平成30年と31年（2018～2019年）は関東支部（東京医科歯科大学）、次の平成32年（2020年）は近畿支部（神戸大学）と、変則的な運用になります。これには二つの事情があります。一つは2018年の受験者は、従来の4年研修の方々とは、2015年から導入された3年研修の方々と同時に受験される年度になり、例年の2倍の受験者が出る可能性があります。この傾向は翌2019年まで続くものと思われまます。このため、顕微鏡の準備（台数）を考慮して、歯学部も利用可能な東京医科歯科大学を会場とします。また2020年は本来であれば関東支部の担当ですが、ご承知のようにこの年には東京オリンピックが開催されます。病理専門医試験もオリンピックとほぼ同時期となり、この状況で、東京で宿泊の予約をすることはかなり困難であろうと思われまますので、2020年は近畿支部（神戸大学）に戻って会場とします。

3. 病理専門医受験資格について（再掲）：

病理専門医受験に当たっては、最低限必要な資格、病理関連の業績、講習会の受講が必要です。ご承知とは思われますが、各施設で受験希望者がいらっしゃる場合に、これらの確認をお願いします。

資格について、死体解剖資格は必須です。これまでは5体の補助と15体の主執刀の合計20体で資格申請が行われていますが、平成30年度からは20体すべてが主執刀となります。また初期臨床研修期間の症例は死体解剖資格や病理専門医受験に使うことができません。専門研修開始後の症例だけが対象となり、かつ死体解剖資格は申請するために1例目の解剖から2年以上の経験が必要です。専門医試験願書の締め切りは例年4月末です。それに間に合うように、専攻医の先生方にはできる限り早く書類の提出をしていただくよう、ご指導をお願いします。なお、変更点の詳細は病理学会のウェブサイト「死体解剖資格認定要領の改正に関して <http://pathology.or.jp/senmoni/20171116info.html>」として掲載していますので、ご確認をお願いします。

病理関連の業績については、病理診断学に関する3篇の業績が必要で、このうち1篇は筆頭でないといけません（病理学会

総会や各支部会での発表も可)。また最低1篇の病理診断学に関する論文も必要です。論文は本学会が発行している診断病理や Pathology International (PI に関しては Letter to the Editor の可) 以外に、適切なレビューシステムのある病理関連の国際雑誌であれば認められます。国内誌で紀要レベルのものは原則として対象外となりますのでご注意ください。なお、掲載雑誌が受験資格として適切かどうかは病理学会事務局にお問い合わせください。

講習会については剖検講習会、病理組織診断に関する講習会(病理学会病理診断講習会もしくは国際病理アカデミー主催の講習会)、分子病理診断に関する講習会及び細胞診講習会(日本臨床細胞学会細胞診専門医有資格者は不要)が必修です。平成30年度は春の総会開催時期が専門医受験願書締め切りの後になっていますので、本年度は特例として剖検講習会、病理組織診断に関する講習会、分子病理診断講習会の未受講者は「受講予定」として願書を提出してください。札幌での学会終了後に直ちに受講証明書を提出していただきます。なお、今後に備えて指導医の先生方は専攻医にこれら講習会を確実に受講させてください。これらの講習会参加証明書は専攻医が各自所持している「病理専門医研修ファイル」に貼付されることになっていますので、そこで受講を確認ください。

4. 病理専門医資格更新について(再掲):

本年度(平成30年秋)に更新を迎える病理専門医の皆様への重要なお知らせです。すでにご承知のように、専門医有資格者の更新が大幅に緩和されることになり、病理学会でもそれに対応して更新基準の緩和をしました。具体的な緩和事項として、① 領域講習(5年間で最小20単位)と学術業績・診療以外の活動実績(0~10単位)の単位互換、② 共通講習を5年間で最小5単位から3単位へ引き下げ、③ 領域講習対象の実質的な拡張、④ 1日に取得可能な単位上限の撤廃、⑤ 学術集会参加による単位上限を5年間で3単位から6単位へ引き上げ、⑥ 連続3回以上の更新者は診療実績の10単位を免除した合計40単位でも更新可能などです。これにともない、病理学会の資格更新手続きや専門医資格更新ガイダンスの改定を行っています。病理学会のウェブサイトなどで開示していますので、確認のほど宜しくお願いします。

資格更新に関しましては日本専門医機構の認定による更新と、従来の病理学会認定による更新と二通りの更新方法があり、専門医機構で更新された方は自動的に病理学会での認定更新もされることとなります(認定更新シールを配布します)。これは医療法上の広告可能専門領域に病理学会専門医が入っていますが、専門医機構専門医はまだ法律上の記載がされていないためです(いずれ追記されると思われます)。専門医資格更新は、可能な限り日本専門医機構による新しい病理専門医資格更新基準のもとで申請手続きをしていただきたいと思います。ただし、やむを得ない事情がある場合は学会専門医での更新申請もして

いただけます。

日本専門医機構認定病理専門医資格の更新を行うには、「病理学会」による単位(該当期間:平成25年11月~平成30年10月)と、「専門医機構」による単位(該当期間:平成27年4月~平成30年10月)の両者のミックスで更新手続きをしていただくことになっています。具体的に説明しますと、来年度(平成30年秋)に更新手続きをされる先生方は、「病理学会として1.5年分と専門医機構として3.5年分」の単位が必要とされています。このため、病理学会分として合計で100点×1.5/5年の30点が必要で、専門医機構分は平成27年4月以降のもので50単位×3.5/5年の35単位が必要となります。連続3回以上の更新された方は診療実績の単位を免除した合計単位(今回は27単位)が必要となります。ただし、診療実績を提出されない場合は、生涯教育委員会が作成した病理画像問題(今夏公開予定)に解答していただくことになりました。病理学会分は従来の計算方式で、例えば病理学会総会参加が20単位/1回、支部会参加が10単位/1回です。その他の学会や研究会の参加単位についてはウェブサイトなどを参考にしてください。専門医機構分は① 診療実績として最小4単位(最大8単位)、② 共通講習は最小3単位(最大8単位、ただし後述の必修3つが含まれている必要があります)、③ 領域講習が最小11単位、④ 学術業績・診療以外の活動実績が最小0単位(最大8単位)で、①~④の合計で35単位が必要となります。なお、③の領域講習と④の学術業績・診療以外の活動実績の単位は互換できます(実際には④の単位を③に回す事例が多いと思われます)。

病理学会分の点数確認には学会の参加証が必要ですが、参加証は必ず記名したもので、かつ名札部分と領収書部分を切り離さずに提出していただく必要があります(コピーも可です)。専門医機構分の各種講習会参加証は各講習会の会場で配布されますので、専門医番号と氏名を記載したうえで更新時まで各自で確実に保管してください。無記名のため書類再提出となる方が例年数名いらっしゃいますのでご注意ください。

専門医機構による専門医更新には共通講習の受講(5年間で3単位以上に変更、平成30年秋に申請をされる方については移行措置期間単位として3単位以上)が必要です。この5年間の3単位うち「医療安全」「医療倫理」「感染対策」の3つは必修です。医療倫理の定義は難しいのですが、「研究倫理」と銘打った講習会を医療倫理と読み替えることは現状では困難です。この点も留意してください。共通講習については他学会(現時点では基本的診療領域)で開催されたものや、病理学会より認定されている施設(認定施設と登録施設、今後は基幹施設と連携施設)で行われたものでも代用可能です。後者の場合は施設長が発行した受講証が必要となります。各施設における受講証明書は専門医機構が見本を示した書類に準じたものにしてください(<http://www.japan-senmon-i.jp/renew/index.html>)。特に、講習会の時間が未記載の証明書が出てきた場合は、対応に苦慮

しますのでご注意ください。ただし、この制度は平成 29 年度中まで有効ですが、平成 30 年度以降は事前に専門医機構に講習会の登録を申請し、許可の下りた講習会だけが単位の対象となる予定です。領域講習については、病理学会主催の学術総会における指定された講習会（臓器別診断講習会など）が対象となります。こちらは共通講習と異なり、各施設における講習会や他学会の講習会はクレジットの対象にはなりませんので、ご理解ください。

5. 今後の日程について：

- 平成 30 年度分子病理診断講習会は平成 30 年 6 月 21 日、剖検講習会は 6 月 23 日に札幌市で開催されます（病理学会総会 1 日目と 3 日目）。
- 平成 30 年度病理専門医試験は、平成 30 年 7 月 28-29 日に東京医科歯科大学で行われます。
- 平成 30 年度病理学会カンファランスは平成 30 年 8 月 3-4 日に愛知県犬山市の名鉄犬山ホテルで行われます。このカンファランスは病理専門医試験受験者の分子病理診断講習会の対象となっています。

（文責：北川昌伸・大橋健一・中黒匡人・村田哲也）

==特集① 私の趣味===== 趣味が昂じて

新潟市民病院 病理診断科 橋立 英樹

元来凝り性かつ移り気な私は、現在まで様々な趣味を持って来た。以前、家庭菜園に凝って最終的には棚田を借りて米作りや自然薯を育てたりした。一時懸賞俳句・川柳にはまり賞金や商品券トータル百万円以上を獲った。十割蕎麦を打ち、栽培や石臼挽きなどもやってみた。三味線は、バックコーラスでの演奏でだが、ニューヨークのカーネギーホールでの公演に来秋参加予定である。多くの趣味はもう飽きてやめてしまったものも多いが、その中でも、十数年以上ずっと続けているのは、漢字だ。

消化器内科医から病理医になった 2000 年頃から漢字の早朝勉強を始め、日本漢字検定協会の漢検 1 級で最高点を取り、文部科学大臣奨励賞というのを頂き、優勝力士がもらうようなトロフィーを頂戴した。通常ならその時点で飽きてしまうのだが、漢字についてはまだ飽きが来ない。漢字はもともと象形文字なので、解剖学や形態学と密接に結びついている。日ごろ解剖を行うたびに、諸臓器の形態を、限られた記号でありながら、見た者がそれと認識できる文字に見事に変換する古代人のセンスの良さに驚嘆したり、臓器の形態と漢字との関係性に新たな発見が見つかるなどでき、実に興味深い。

篆刻をされる方はご存知だと思うが、心という漢字の元字は子供のおちんちんのような形である。つまり縦に細長い楕円形(heart)の上に左右の房のようなものが付いた形で、左右の房はおそらくまだ退縮していない新生児または乳児の胸腺だと思

われる。脳の元字である函(シン、ひよめき)の中央の×はまだ閉鎖前のやはり新生児～乳児の大泉門に当たると思われる。脾は重要臓器を指す五臓六腑の五臓には含まれておらず、脾の字自体が日本人が造った国字になるが、もともと pancreas (または十二指腸乳頭部～pancreas+spleen)を指す文字として脾という字が中国で使われていた(漢方で脾は消化器系臓器に当たる)。乳児の pancreas は、色・大きさ・形状(主脾管が中央を通り軽いカーブを描く)すべてが植物の稗(ひえ)の穂にそっくりである。稗の禾(のぎへん)をにくづきに換えると脾になる。形態的に稗の穂によく似た pancreas に当てた漢字が本来の脾の字であり、日本はその字を中国から輸入する際に誤変換した可能性が高いと思われる。

つまり、心・脳・脾の成り立ちから推測すると、漢字を創った古代中国人は、乳児または新生児の解剖を行っていたものと思われる。甲骨文字の発掘から、漢字の成立は、紀元前千～千三百年頃とされているので、ヒポクラテス(紀元前 460 年頃～)よりも数百年前の古代中国人が解剖を行っていたということなる。日々解剖を行いながら、古代中国人の形態学的センスと、解剖学的知識のすごさに感動したりしている。

~~~~~ 凌う

昭和大学医学部 臨床病理診断学講座 塩沢 英輔

当番分を全部片づけ、あとは最終確定よろしくねっ、と教授の標本棚に投げ込む。自分の棚が空っぽになるのは気分いい。時計をみると 21 時を廻っている。これから溜まっている論文を書けば、いまごろ立派な病理学者になっていたが、夏休み課題も 9 月にやってた自分にできるはずもない。かと言ってまっすぐ家に帰るにはちょっと早いなど、実験室奥のキャビネットに隠してあるのをゴソゴソ取り出す。研究室にはもう誰もいない。

ヴァイオリン/ヴィオラやってますという、どうも協調性があると思われがちで、harmony という言葉が音楽用語の“和声”よりも、調和・協調という社会の必需品のように語られるのはこそばゆい。オーケストラとかアンサンブルとかやらないと、可哀そうな人みたいにみられるか。でも、苦手なんです、そういうの。

アマオケが嫌いではなく、もう散々やりました、というところ。高校・大学オケでチャイ 5 (Tchaikovsky 交響曲 5 番、以下同様)は 5 回も本番をやったさすがに飽きた。ブラ 1 が好きだが、出番の少ないトロンボーンが拗ねるのでアマオケではやりにくい。ドボ 8 の 2nd は最悪につまらないけど、サブメインの悲劇的序曲は何度でも弾きたい。でもコンマス、学生指揮、副団長、渉外担当、会計係などアマオケの大変な役回りはすべてやったので、もうおなかいっぱいなのだ。結局アマチュアである以上、オケを運営してなんぼで、ただ練習して弾いて本番

に乗るだけなら、それが許される存在であるプロ音楽家の方みたいで、なんだかエラそうでちょっとハズかしい。こんな気持ちをただ“苦手”と表現しただけなのだけれど。

で、誰もいなくなった研究室で、独りギコギコ弾く。キャビネットの中は家には持って帰れない（いくらしたのっ（怒）と聞かれると困る）楽器たちで溢れ、居場所を失った雑誌は Pathology International を唯一の例外として捨てられてしまった。

昔弾いた譜面を取り出して、少しずつ浚（さら）ってゆく。浚うのは楽しい。前に進むのではない。昔、習ったことを一つずつ確認していく。あの時は弾けたのと思っても、まるで初見のように絶望的に指が廻らない。それが20年のブランク。が、譜読みをしていくと、昔、弾けたときの感覚が少しずつ戻ってくる。

親の趣味に付き合い合わせられ強制的にヴァイオリンをやらされた子供たちは、「専門にはいかない」と宣言し、コンクールに出るのはもうやめた。毎朝5:30に叩き起こして練習させた結果、妻から「一歩間違えば虐待」と言われただけのことはあって、家にはいくつかのトロフィーやメダルが転がっている。でも厭々ながらも、ありがたいことにレッスンだけは続けてくれている娘は、すでにローデ24のカプリース（上級者向けの練習曲集、音大入試課題曲の定番）に進んでおり、用済みになった書き込みだらけのクロイツェル（中級者向け、ヴァイオリンを習う者は必ず通る道）は、いまは研究室にある。

子供が難なく弾くクロイツェル39番を、親がつかえながら弾くのはなんとも癪だが、練習曲とは思えないほど美しく、でも難しくて、35年前にあんなに浚ったのに弾けなかった後半の重音は、やっぱり今も弾けない。

それでも35年後も生きていたら（80歳!）、老眼鏡で楽譜を睨み、震える指で浚いながら、「ちくしょう、やっぱり弾けねえじゃねえかっ」と悪態をついている。

ちょっと変わった私の趣味

鈴鹿中央総合病院 村田 哲也

まずはタイトルですが、これは趣味がちょっと変わっているわけではなく、「ちょっと変わった」は「私」の形容詞です。もし周囲に私のことを知る人がいましたら一度聞いてください。多くの場合「ちょっと変わった人」という評価をしていただけたらと思います。なお、この場合の「ちょっと」は、社会人としての嗜みとしての社交辞令が含まれていますので、本来の意味としては「随分」とか「相当」とかのニュアンスになると思います。

で、どんな趣味かと言うと、これが全く大したことはありません。まずは「読書と散歩」。この趣味のためテレビを見る時間はありませんので、私にドラマやテレビ芸人の話をしてもま

ともな反応は得られないことをご理解ください。なぜ読書と散歩を一くくりにするのか。それは、本は本屋で買うことを決めており、本屋に行くために散歩という手段を取っているからです。新刊本は住まいのある津市内で買いますが、古書や少数刊行書は京都や大阪で買うことになります。年に十回ほど京大阪へ散歩に出かけますが、その多くは本屋巡りとセットになっています。散歩中は色々と考え事をしながら歩いています。これをもって「人生至る所に哲学の道あり」と称していますが、実際に考えていることは、「雑念」とか「妄念」でしょう。なお、「乗り鉄」という趣味もあり、京大阪へ出かける際は近鉄に乗ることもまた楽しみとしています。

「写真」も趣味の一つですが、決してステキなカメラを持っているわけではありません。安いデジタルコンパクトカメラを片手に、散歩中の気に入った風景を切り取っているだけです。対象は建築物や花が多いのですが、猫を見つけたら追いかけてでも撮る癖があります。そのため、京大阪のみならず、沖縄の猫スポットも把握しております。無駄な知識ですね。

「沖縄」も趣味と言えましょう。これはもう行くだけで満足なのですが、やはり行くと猫スポット巡りをして、夜は行きつけのお店で食事を楽しむ。那覇を離れる場合は路線バスで行き当たりばつりの旅をして、行った先で散歩をする。これで大満足です。

津を離れた散歩では昼食時の「健康飲料摂取」も趣味の一つです。健康飲料とは不思議な飲み物で、外観も成分も全く変わらないまま、午後5時を過ぎると麦酒と名前を変えるのです。この謎は未だに解明されていません。

「飲むこと（特に麦酒）」も大切な趣味です。10年前までは毎日飲んでいましたが、今は基本的に週末だけにしています。家飲みが多いのですが、なんととっても楽しいのは病理学会の度に開催される「59+@の会」、別名「夜の第一会場」です。元は今から20年ほど前に始めた、昭和59年卒の病理医の会でしたが、今では上下の学年入り乱れ、単なる飲み好き病理医の宴会となっています。ちなみに私は昨年度からこの会の常任理事を自任しており、その任務は次回の飲み会の責任者（幹事）を決定することだけです。

ここまで書いてみると、意外と自分が多趣味であることに気付かされました。こうなると「趣味人」と自称しても支障ないでしょう。そして、趣味の内容からは自分は意外と「普通の人」である可能性も示唆されたように思われます。そうなるとこの文章のタイトルと齟齬が出てしましますが、そこは「変な人」の書いた文章と思って深く追求ないようにしましょう。

私の趣味

社会医療法人愛仁会高槻病院 病理診断科 伊倉 義弘
箏奏者の妻の勧めで尺八を始めてから、かれこれ20年ほど

になります。それまで楽器演奏の経験は、小学校・中学校の教科として習ったハーモニカとリコーダーぐらいでしたから、リズムや音程がきちんととれるだろうかと心配でしたが、師匠から「大丈夫ですよ、すぐに慣れます」と説得され、とにかく始めてみることにしました。かろうじて音らしきものは出たものの、音楽というには程遠く、しかしながら何故か強く惹きつけられるものがありました。この瞬間から完全に尺八の虜になってしまいました。

稽古は基本的に箏・三味線との古典合奏曲の尺八パートを練習します。最初は琴や三味線と同じく、「黒髪」という、とても色っぽい唄のついた曲から教わります。五線譜ではなく、経本のような独特の楽譜を使います(図)。ピアノの練習曲同様、非常にたくさんの課題曲があって、20年かかってもまだ全てを消化できてはいません。曲が進むにつれ、演奏技術だけでなく、尺八の歴史的背景などについても少しずつ説明を受けます。全く何も知らない状態で飛び込んだのですが、教室は琴古流という流派に属し、それは江戸時代中期に尺八を虚無僧尺八からきちんとした音楽に初めて体系化した、「黒沢琴古」を始祖としていることなどを徐々に教わります。

琴古流が最も大切にしているのは、実は箏・三味線との合奏曲(「外曲」と呼んでいます)ではなく、尺八独奏/合奏曲である「本曲」(元来、虚無僧たちがお経の代わりに吹奏した曲)です。基本的に独奏曲ですので、ある程度力量が身につけてから習います。36曲あり、ほとんどは元々瞑想を目的にしたものであるため、難易度の割に演奏効果の低い(パツとしない)曲ばかりで、習うのも辛いのですが、その中に2曲だけ例外的なものがあります。「鹿之遠音」(図)と「巢鶴鈴慕」の2曲で、これを習いたいがために琴古流に流派替えする奏者までいると聞きます。前者はメロディアスなマイナー・コードの曲、後者は尺八テクニックの全てを詰め込んだ超絶技巧曲(フルバージョンは演奏時間20分を超えます)で、いずれも名人の演奏は聴くものの心を揺さぶり、魅了します。ちなみに私は「巢鶴鈴慕」はまだ未修です。



図：尺八(真竹製の縦笛で名称はその寸法が一尺八寸であることに由来)と楽譜(黒髪・鹿之遠音)。ロ・ツ・レ・チ・リ(レ・ファ・ソラ・ドに相当)で音程を表している。

なかなか上達せず、もはや下手の横好きと言われても返す言葉もない状態ですが、振り返ってみると、それなりの恩恵もありました。国際学会には大概一人で参加していましたが、自演題発表後に海外の研究者たちに食事に誘われたりすると、研究のこと以外に、何か「日本的なもの」の話題提供を求められます。生来の口下手で、尺八のことがなければ、恐らく「日本のシャワートイレは世界一の革命的テクノロジーだ」などと言って、失笑を買うのが関の山だったろうと思います。自演奏の「鹿之遠音」を聞いてもらってから、2匹の鹿が鳴声を交わす様子を描写している、夫婦鹿という解釈と雄鹿同士の縄張り主張との解釈がある、などと説明すると食い入るように話を聞いてくれました。本当に助かりました、勤めてくれた妻に感謝。なお、妻とはこれまで一度も合奏したことがありません。

時々のピアノ

香川大学医学部附属病院 病理診断科 伊吹 英美
「私の趣味はピアノです」と言えるほど、ピアノが上手なわけでもクラシックに精通しているわけでもなく、車の中ではEDMばかり流していますが、週末に時々ピアノを弾いています。幼い頃は厳しい母の恐怖政治の下、一日に何時間も練習していた(させられていた)ものですが、大学受験を期にピアノ教室をやめてからすっかりピアノから遠ざかっていました。ちょっとしたコンクールに参加してみたこともありましたが、趣味としては楽しいものの、勝負事となると精神的に少し辛かった思い出があります。

そんな私がもう一度ピアノを弾いてみようかな、と思ったきっかけは娘がピアノ教室に通い始めたことでした。娘がピアノに興味を示したことが始まりでしたが、楽譜を先読みしながら左右の手を並列で複雑に動かすピアノをやらせれば、子供の脳発達に良い影響があるかもしれない、との下心も少なからずありました。しかし、親の立場になってみて痛感しましたが、幼い子供にピアノを教えるのは想像以上に大変でした。良くないと分かっているながらヒートアップしてしまい、恐怖政治の歴史を繰り返しそうになります。そんな日々を過ごしていたある時、先生から発表会でお子さんと連弾をしてみませんか、とのお話を頂きました。何年もの間ほとんどピアノを触っておらず不安もありましたが、親子の良い思い出になるだろうと練習を再開しました。娘と孫に触発されたのか、母までも数十年ぶりに練習を始め、先生の暖かく根気強いご指導の下なんとか形になり、親子三代で発表会に出ることができました。昔自分が着たドレスを娘が着て演奏する姿を見て、万感胸に迫るとはこのことか、と思いました。

さて、私の好きな楽曲を少し紹介させて頂こうと思います。ショパンの「革命のエチュード」や「スケルツォ第1番 口短調 Op.20」などの激情的な曲、リストの「ラ・カンパネラ」や「マ

ゼツパ」、シューマンの「クライスレリアーナ第7曲」などの超絶技巧曲が大好きです（弾けません）。学会発表の前やちょっと落ち込んだ時に聴くと、正体不明の主人公感や無敵感が湧いてきて元気になります。感傷的な気分になりたい時には、チャイコフスキーの「舟歌」やショパンの「雨だれ」などを聴きます。

現在は、昔弾けていたはずのショパンの幻想即興曲をすっかり動かなくなった指で練習しているところです。脱力が下手でどうしても終盤で指と前腕が痛くなってしまい、休み休みですが夢中で弾いて、練習が終わった頃には爽快な気分になっています。これからも、ピアノの魅力を教えてくれた故郷大阪の恩師に感謝しつつ、再び発表会の舞台上に上がれるよう、娘と共に少しずつでも練習を続けていこうと思います。

==特集② 私の恩師=====

私の恩師

日本医科大学付属病院 病理診断科 坂谷 貴司

私は平成8年に鳥取大学を卒業し、この春で22年になります。振り返ってみますと、たくさんの先生方との出会いがあり、お世話になったなあと今更ながら思います。

一人の先生に長く師事することはありませんでしたので、みなさんが思い描く「恩師」に当てはまるかはわかりませんが、ここでは4人の先生のお名前を挙げたいと思います。

お一人は私の学生および大学院生時に鳥取大病理の教授でした井藤久雄先生です。井藤先生は、「自分自身に何か決定的に方向づけてくれた人」であります。当時広島大から赴任されたばかりで活力に溢れ、所属していたサッカー部の顧問となられたこともあって、「貴司ちゃん、病理はええとこやから、卒業したら入れ」とお声掛けいただくこともたびたびありました。将来は外科医になるのか、それとも内科に進もうかなどと思っていた医学部3年の頃の出会いです。結局、卒後は外科に入局しましたので、大学院生時に指導いただいたのみとなってしまいましたが、井藤先生との出会いがなければ、私は病理医になっていなかったでしょう。

卒後入局した外科の教授であった貝原信明先生、大学院時に分子生物学の手ほどきをいただいた細胞工学教授の押村光雄先生は「自分の人生において過渡期といえる価値のあった時期に、陰に日向に助けていただき、生き様をみせていただいた人」であります。貝原先生は、若い医局員が自分でなんとか生きようとしている姿を、暖かく見守ってくれているような先生でした。3年ほど前にお亡くなりになれましたが、消化器細胞診を行っているのは鳥取大学第一外科の伝統を引き継いでいるわけでもあります。

押村光雄先生は、「やっちゃえ、やっちゃえいいんだ。」「人と違うから君なんだよ。」と、自由や独自性など、生き方について大きな刺激をいただきました。

私のなかにおおらかな、自由な雰囲気があるならば、このお二人の先生に触れていたからかもしれません。

そして最後は、西神戸医療センターの部長、橋本公夫先生です。外科医、研究と8年が経っており、次はしばらく病理診断に専念したいと考えていたところ、「病理診断をやるんなら、うちで勉強してもらっていいよ」とお話いただき、留学から帰国、着任となりました。切り出しから診断所見まで理路整然とした完成された形でお仕事をされており、診断病理の基本をたたき込んでいただきました。「先生の所見は読んでおもしろくないやあ」と言われたことを覚えています。留学時の仕事がScienceに出たのですが、とても自慢できる雰囲気ではありませんでした（笑）。当時はとても厳しく感じたのですが、先生が伝えたかったことを今では十分理解できます。ここでの2年間がなければ、診断病理医としての現在の私はおりません。

その後、上京し、東大、自治医大を経て現在に至ります。自分がまだ何のもでもない頃の当時の雰囲気とともに鮮やかに思い出される先生を思い浮かべ、書かせていただきました。

私の恩師

帝京大学医学部附属病院 病理診断科 斉藤 光次

私は病理医として働いていますが、現在に至るまで厳しくも暖かく育てて頂いた諸先生方、看護師さんを初めとするコメディカルの方々に大変お世話になりました。中でも消化器内科医であった私に肝臓病理の道を開いて下さった故内田俊和先生には大変感謝しています。

大学卒業後、昭和大学豊洲病院の消化器内科に入局し、肝臓専門グループ（岡部慎一郎先生、千葉俊哉先生、大西佳文先生）に入ったことが肝臓への第一歩でした。入局当時の豊洲病院周辺にはアルコール性肝硬変を初め、未治療の肝細胞癌の患者が多く、岡部先生指導の下、血管造影、経皮的エタノール注入療法（PEIT）、経皮的ラジオ波焼灼療法（RFA）などを教えて頂きました。手技を学び始めたところで、大学院に行かなければならない時期になってしまいました。

大学院（旧第一病理学教室）に行くと、週二回の診断当番があり、解剖も200件/年以上と多く、日常業務をこなすので精一杯で、学位の仕事に手が回りませんでした。

当時、学位のテーマは決まっておらず、自分で模索しなければなりませんでした。もともと肝臓グループであったことから、肝臓病理でテーマを探すことに決め、意気込んで肝臓病理の本を数冊購入しました。購入したのは良かったのですが、初心者の私にはとても難しく診断できるレベルに至りませんでした。肝臓病理を勉強し始めて間もなく、隣の教室（旧第二病理学教室）に肝臓病理の大家である内田俊和先生が客員教授として来られることになりました。診断で困った症例を内田先生にコンサルトすると、快く教えて下さったばかりでなく、隣の教室員

である私に『毎週月曜日の朝一で、一時間程度、一緒に標本を診ましょう』と、貴重な時間を割いて下さいました。次週より肝臓病理の基礎を教えて頂き、さらに『内田コレクション』と呼ばれる希少例のコレクションを毎週持ってきて解説して下さいました。数年でしたがかなりの症例を診させて頂きました。その時に教えて頂いた肝臓病理の基礎が今でもとても役立っています。また、診させて頂いた『内田コレクション』の中には、自分自身では未だに遭遇していない希少例も数多く、改めて内田先生の凄さを実感しています。晩期には体調を崩されているにも関わらず標本を持ってきて解説して頂き、本当に感謝できません。

内田先生の亡くなられた後は、ご紹介頂いた肝臓病理の大家である中野雅行先生、松本俊治先生、松本光司先生にお世話になり、現在では近藤福雄教授の下で肝臓病理の研究を行っています。

私も肝臓病理の面白さと奥の深さを広めることで、故内田俊和先生に少しでも恩返しができると思っています。

== 支部報告 ==

-- 北海道支部 -----

北海道支部会報編集委員 深澤 雄一郎

学術活動報告

2017年12月16日(土)、第181回日本病理学会北海道支部学術集会(標本交見会)が鳥越俊彦先生(札幌医科大学医学部第一病理)のお世話で、札幌医科大学記念ホールにおいて行われました。

特別講演

自治医科大学 病理診断部・病理診断科
部長・教授 福島敬直先生
「膵胆道腫瘍の病理 ― 基本から最近の話題まで」

症例検討

番号 / 発表者(と共同演者) / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名(主なもの) / 臨床診断 / 発表者の病理診断

17-12: 後藤田裕子¹、市原 真¹、岩口佳史¹、村岡俊二¹、安食さえ子²、柳沢健二²、加賀谷真起子²、高橋博之²、阿南 隆³ / ¹札幌厚生病院病理診断科、²札幌厚生病院皮膚科、³札幌皮膚病理診断科 / 70歳代 / 男性 / 皮膚 / 高齢者の顔面部腫瘍一例 / Endocrine mucin-producing sweat gland carcinoma

17-13: 石立尚路¹、今本鉄平¹、石井保志¹、岩崎沙理¹、辻 隆裕¹、深澤雄一郎¹、本間壽大²、田島康敬³、好井健太郎⁴ / ¹市立札幌病院病理診断科、²市立札幌病院放射線診断科、³市立札幌病院神経内科、⁴北海道大学院獣医研究科 / 40歳代 / 男性 / 脳脊髄 / 若年男性のダニ咬傷後の脳死剖検例 / Tick-borne encephalitis

17-14: 大塚拓也¹、中 智昭¹、高桑恵美¹、三田村卓²、加藤扶美³、三橋智子¹、松野吉宏¹ / 北海道大学病院病理診断科、²同・婦人科、³同・放射線診断科 / 40歳代 / 女性 / 卵巣 / 中年女性に発生した右卵巣腫瘍の一例 / Mucinous carcinoid with carcinomatous element in mature cystic teratoma

17-15: 牧田啓史¹、高橋利幸² / ¹北海道大学分子病理、²医療法人彰和会北海道消化器科病院病理部 / 70歳代 / 女性 / 総胆管 / 胆管癌切除の1例 /

Common bile duct carcinoma accompanied with IgG4-related lesion

17-16: 立野正敏¹、菊池泰弘²、青木直子³、柳内 充⁴ / ¹釧路日赤病院病理診断科、²札幌医科大学病理、³旭川医科大学病理学講座、⁴KKR 札幌医療センター病理診断科 / 60歳代 / 男性 / 軟部 / 粘液産生性膵腫瘍が疑われた膵病変 / Groove pancreatitis

-- 東北支部 -----

東北支部会報編集委員 長谷川 剛

第86回日本病理学会東北支部学術集会在、東北大学の良陵会館で平成30年2月17、18日(土、日)に行われた。一般演題21題とともに、初日の教育講演、2日目に特別講演と充実した学術集会で、懇親会を含めて有意義に過ごした。また、本会に引き続き「若手病理医の会」も行われた。

【教育講演】長沼 廣先生 仙台市立病院病理診断科

「甲状腺における境界病変、低悪性度腫瘍、微小癌の取り扱いについて」

【特別講演】古川 徹先生 東北大学大学院医学系研究科病理形態学分野

「膵管内腫瘍の病理と分子異常」

【一般演題】(筆頭演者、所属および演題名 / 演者診断の順)

1. 小林靖幸、他 福島県立医科大学医学部病理病態診断学講座
診断に難渋した卵巣腫瘍 / Struma ovarii
2. 本山悌一、他 新潟県立中央病院病理診断科
思春期の子宮漿膜より発生した有茎性腫瘍 /
Uterine tumor resembling ovarian sex-cord tumor
3. 演題取り消し
4. 佐々木純一、他 みやぎ県南中核病院研修医
急性左室心筋梗塞で自由壁破裂を起こした1例
5. 中川夏樹、他 新潟市民病院病理診断科研修医
急性右心不全の1剖検例 / Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy
6. 玉澤暢之、他 山形大学医学部病理診断学講座
肺腫瘍の1例 / Pulmonary blastoma
7. 生形晃男、他 みやぎ県南中核病院研修医
急性小脳梗塞を発症したクリプトコッカス髄膜炎に認めた細動脈病変
8. 廣嶋優子、他 秋田大学医学部附属病院病理診断科・病理部
脳腫瘍の1例 / Subependymoma
9. 丸山 智、他 新潟大学医歯学総合病院歯科病理検査室
篩骨洞腫瘍の1例 / SMARCB1 (INI-1)-deficient sinonasal carcinoma
10. 板倉裕子、他 石巻赤十字病院病理部
腸炎の2例 / 薬剤性(ニボルマブ)腸炎
11. 立野紘雄、他 日本病理研究所
大腸粘膜に出現した稀な色素斑病変 /
Nevocellular (pigmented) nevus of the colon
12. 上杉憲幸、他 岩手医科大学医学部病理診断学講座
潰瘍形成を来した大腸病変の1例 /
Idiopathic myointimal hyperplasia of mesenteric veins
13. 佐藤麻生、他 新潟市民病院病理診断科研修医
乳腺腫瘍の1例 / 悪性筋上皮腫
14. 本間慶一、他 新潟県立がんセンター新潟病院病理診断科
乳腺腫瘍の1例 / Secretory carcinoma

15. 坂元和宏 大崎市民病院
皮膚腫瘍の1例 / Merkel cell carcinoma
16. 藤島史喜、他 東北大学大学院医学研究科病理診断学分野
肝腫瘍の1例 /
Intrahepatic cholangiocarcinoma with ductal plate malformation-like pattern
17. 中西宏貴、他 栃木県立がんセンター外科レジデント
膵腫瘍の1例 / Solid pseudopapillary tumor
18. 熊谷史子、他 秋田厚生医療センター病理診断科
膵腫瘍の1例 / Mixed ductal-neuroendocrine carcinoma of the pancreas
19. 日下部 崇 寿泉堂総合病院病理診断科
顎骨腫瘍の1例 / Osteosarcoma
20. 深谷佐智子、他 東北医科薬科大学病院病理診断科
頸部リンパ節腫脹を来した原発不明癌の1例 /
Merkel cell carcinoma of lymph node
21. 黒瀬 顕、他 弘前大学大学院医学研究科分子病理診断学講座
軟部に発生したメラニン形質を有する悪性腫瘍 /
Xp neoplasm with melanocytic differentiation

-- 関東支部 -----

関東支部会報編集委員 九島 巴樹

第77回日本病理学会関東支部学術集会報告

日本大学医学部病態病理学系 形態機能病理学分野
杉谷 雅彦

第77回日本病理学会関東支部学術集会および第138回東京病理集談会を2017年12月9日(土)に日本大学医学部記念講堂で開催した。

まず、専門医更新時単位に関して、世話人校の事務局に事前に数件問い合わせがあり、多くの会員の知りたいところと考えられ、これまでは学術集会のプログラムに単位について記載されていなかったが、専門医制度ご担当の北川昌伸先生にご確認頂いた上で、専門医資格更新単位を今回のプログラムに明示し、関東支部ホームページに掲載した。

学術集会の午前中に、日本大学医学部リサーチセンター1階セミナー室にて、非小細胞肺癌で求められるPD-L1に関する若手病理医講習会が日本大学腫瘍病理学分野教授の増田しのぶ先生のお世話で開かれた。「肺がん診療におけるPD-L1測定の臨床的意義」の題目で日本大学呼吸器内科学分野准教授 高橋典明先生より、「PD-L1染色における留意点」の題目でアジレントテクノロジー 伊東由真先生より、「PD-L1検査の実際：事例から学ぶ注意点」の題目で国立がんセンター中央病院 病理・臨床検査科医長 元井紀子先生より講演があった。10数名の参加者があり、丁寧な指導と熱心な意見交換が行われ実際の有意義な会であった。この講習会はアジレント・テクノロジー株式会社、小野薬品工業株式会社/ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社の共催で行われた。

また、関東支部幹事会が開催され、かねてより病気療養中であつたお二人の先生が幹事会へお元気にご参加され、幹事一同、何よりもうれしく安堵した。この会での報告・審議事項の要旨

は、午後の学術集会の中で時間を設定し、東京医科歯科大学医歯学総合研究科 包括病理学分野教授の北川昌伸副支部長より出席会員向けに報告された。

午後1時より学術集会を開催した。世話人大学以外の施設からの参加は203名、学生参加は4名、世話人大学からの参加病理医は14名、合計で221名であった。学生参加は独協医科大学からであった。天候に恵まれたことも参加者多数の理由の一つであるかもしれないが、2つの特別講演がtimelyで、特別講演者のお二人の高度な発信力によるところが大きいのではないかと考えられる。昨年改訂された血球系悪性腫瘍のWHO分類では、本の分厚さが増し、疾患名が増え、分子病理学的検索の記載が増え、一般診断病理にとり難解さが増しきているが、埼玉医科大学教授の田丸淳一先生の講演は、改訂要点をpick upし、難しい内容を判りやすくご講演頂き非常に好評であった。また、肺癌取り扱い規約では腺癌の浸潤・非浸潤等、新しく細かく定義された項目が多く、一般病理医の頭痛の種になっていると考えられるが、奈良県立医科大学 病理診断学講座教授の大林千穂先生の特別講演では多くのデータを駆使して、臆することなく診断に奮い立たせるよう、工夫をいただいた感がある。特に、「迷った場合は浸潤に」とお話されたことが記憶に残っている。大林先生をご推薦頂いた筑波大学医学医療系 診断病理学教授の野口雅之先生にお礼を申し上げる。一般演題の症例検討も希少・貴重な症例で良い討議が行われたとの評価を集会後の懇親会参加者より頂いた。発表して頂いた演者の方々に感謝申し上げるとともに、ご専門となされている領域の先生方にお忙しい中、座長の労をおとり頂き、さらに適切なお発言が随所に見られ、感謝申しあげる。

会は比較的順調に経過したが、熱心な討議が多く、会の終了は予定より遅くなった。最後まで多くの皆様にご参加頂き、改めて御礼申し上げます。プログラムを次に記す。なお、一般演題の番号は東京病理集談会の過去から継続されている番号である。

第77回日本病理学会関東支部学術集会および第138回東京病理集談会のプログラム(以下、敬称略)

日時：平成29年12月9日(土)13:00~17:40

会場：日本大学医学部記念講堂(図書館棟4階)

主催：一般社団法人日本病理学会関東支部

世話人：日本大学医学部病態病理学系形態機能病理学分野

杉谷雅彦

【会議・運営】

11:00~12:00 幹事会(図書館棟2階 同窓会会議室)

12:30~16:30 標本供覧(図書館棟3階)

【開会挨拶】13:00

【特別講演 1】 13:05~14:05

演題：悪性リンパ腫の新 WHO 分類 2017

講師：田丸淳一（埼玉医科大学 総合医療センター 病理部（病理診断科））

座長：杉谷雅彦（日本大学医学部 病態病理学系 形態機能病理学分野）

【一般演題 853~855】 14:05~15:05

853. 座長：中村直哉（東海大学医学部 基盤診療学系 病理診断学）

演題：サルコイドーシスの経過観察中に左大腿動脈に B 細胞性リンパ腫の腫瘍栓が生じ、剖検にて大血管内を首座とする血管内の大細胞型 B 細胞性リンパ腫と診断された 1 例

手島伸一¹⁾、武田宏太郎¹⁾、工藤まどか¹⁾、小田康弘²⁾、石岡邦啓²⁾、佐藤淑²⁾、玉井洋太郎²⁾、岸 宏久³⁾

¹⁾湘南鎌倉総合病院 病理診断部、²⁾同 内科、³⁾同愛記念病院病理

854. 座長：鈴木高祐（聖路加国際病院 病理診断科）

演題：悪性リンパ腫化学療法後に劇症肝炎を発症して死亡した 80 歳代男性の 1 剖検例

木脇祐子¹⁾、石田尚子²⁾、小林大輔³⁾、菅原江美子⁴⁾、桐村 進⁴⁾、富井翔平⁴⁾、今田安津子⁴⁾、明石 巧⁴⁾、矢内真人⁵⁾、慶徳大誠⁵⁾、北川昌伸¹⁾、江石義信³⁾

¹⁾東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 包括病理学分野、²⁾同 口腔病理学分野、³⁾同 人体病理学分野、⁴⁾東京医科歯科大学 医学部附属病院病理部、⁵⁾同 消化器内科

855. 座長：福永真治（新百合丘総合病院 病理診断科）

演題：左示指軟部腫瘍の一例

井野元智恵、中村直哉

東海大学医学部 基盤診療学系 病理診断学

【幹事会報告】 15:05~15:20

副支部長 北川昌伸（東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 包括病理学分野）

【休憩】 15:20~15:40

【特別講演 2】 15:40~16:40

演題：肺癌取扱い規約第 8 版に則した診断；特に腺癌の浸潤評価について

講師：大林千穂（奈良県立医科大学 病理診断学講座）

座長：野口雅之（筑波大学 医学医療系 診断病理学）

【一般演題 856~858】 16:40~17:40

856. 座長：松山高明（昭和大学医学部 法医学講座）

演題：梗塞巣に広範な石灰化を生じた急性心筋梗塞の一部検例

鈴木高祐¹⁾、野濤 史¹⁾、宇野美恵子¹⁾、内田土朗¹⁾、植草利公²⁾、植田初江³⁾

¹⁾聖路加国際病院病理診断科、²⁾関東労災病院病理診断科、³⁾国立循環器病研究センター臨床病理科

857. 座長：新井富生（東京都健康長寿医療センター 病理診断科）

演題：十二指腸原発 sarcomatoid carcinoma の一部検例

相田久美

埼玉石心会病院 病理診断科

858. 座長：中澤温子（埼玉県立小児医療センター 臨床研究部）

演題：重症肥大型心筋症で早期死亡した Noonan syndrome with multiple lentiginos の一部検例

市村香代子¹⁾、日向宗利¹⁾、中釜 悠²⁾、竹原広基²⁾、犬塚 亮²⁾、深山正久¹⁾

¹⁾東京大学医学部附属病院 病理部、²⁾同 小児科

【閉会挨拶】 17:40

【懇親会】 17:45 ~ 場所：リサーチセンター 4F

報告を終えるに当たり、支部長の日本医科大学 統御機構診断病理学教授 内藤善哉先生、副支部長の北川昌伸先生のご指導で、無事に会を終え、篤く御礼申し上げます。また、会の運営にあたり丁寧な support をいただいた幹事の日本医科大学 統御機構診断病理学准教授 大橋隆治先生、関東支部事務局秘書の小野祐子様に深謝申し上げます。さらに、日本大学医学部の 3 つ病理学分野スタッフ、会計等細かいところを担ってくれた形態機能病理学分野秘書の川路美子様にも感謝申し上げます。

第 78 回日本病理学会関東支部学術集会報告

防衛医科大学校 病態病理学講座 津田 均

第 78 回日本病理学会関東支部学術集会は、2018 年 3 月 10 日（土）に防衛医科大学校臨床大講堂にて開催された。

学術集会に先立ち、防衛医科大学校研究センター 1 階会議室において幹事会が開催され、支部長、副支部長の交代、研修プログラムの登録状況、病理専門医試験の日程等についての報告、今後の学術集会開催についての審議があった。報告・審議事項の要旨は、学術集会の冒頭で、北川昌伸副支部長より報告された。

学術集会の参加状況は、当講座 5 名と医学科学生 3 名を含む 152 名であった。特別講演は 2 題で、講師の九嶋亮治先生には、昨年改訂された胃癌取扱い規約第 15 版の変更点をわかりやすく説明していただき、石川俊平先生には、胃癌のゲノム病理学について、病理組織像との関係や治療の観点から興味深いご講演をいただいた。一般演題は 5 題でいずれも貴重な症例や新疾患概念の解説であり、活発な討議が行われた。ご発表頂いた演者の先生方と座長の労をおとり頂いた先生方に深く感謝申し上げます。

第 78 回日本病理学会関東支部学術集会プログラム（敬称略）

日時：平成 30 年 3 月 10 日（土）13:00~17:30

会場：防衛医科大学校 臨床大講堂

主催：一般社団法人日本病理学会関東支部

世話人：防衛医科大学校 病態病理学講座 津田 均

総司会：防衛医科大学校 病態病理学講座 佐藤仁哉

【会議・運営】

11:00~12:00 幹事会（防衛医科大学校 研究センター 1 階 会議室）

12:00~16:00 標本供覧（防衛医科大学校 臨床小講堂）

【開会挨拶】 13:00

【幹事会報告】 13:05~13:20

副支部長：北川昌伸（東京医科歯科大学 包括病理学分野）

支部長：内藤善哉（日本医科大学大学院 統御機構診断病理学）

【特別講演 1】 13:20~14:20

演題:「胃癌取扱い規約第 15 版の行間を読む」

講師: 九嶋亮治 (滋賀医科大学臨床検査医学講座 (附属病院病理診断科))

座長: 松熊 晋 (自衛隊中央病院 保健管理センター・診療技術部病理課)

【一般演題①】 14:20~15:00

1. 座長: 鈴木理樹 (神奈川県立がんセンター 病理診断科)
「肺門部リンパ節転移陽性で原発不明である稀な組織像を呈した肺癌の 1 切除例」
演者: 坂巻寛之 (国立がん研究センター中央病院 病理・臨床検査科) 他
2. 座長: 横尾英明 (群馬大学大学院医学系研究科 病態病理学)
「急速に意識障害が進行した急性髄膜脳炎の 1 剖検例」
演者: 内海由貴 (自衛隊中央病院診療技術部病理課) 他

【休憩】 15:00~15:20

【一般演題②】 15:20~16:00

3. 座長: 伴 慎一 (獨協医科大学 埼玉医療センター 病理診断科)
「多彩な分化を示す胃型形質の胃腺癌の 1 例」
演者: 近藤篤史 (東京大学医学部附属病院 病理部) 他
4. 座長: 小山敏雄 (山梨県立中央病院 病理診断科)
「血球貪食症候群により急激な転帰を辿った、抗 ARS 抗体陽性皮膚筋炎と全身性強皮症を合併した 1 剖検例」
演者: 熊澤文久 (防衛医科大学校 病態病理学講座) 他

【特別講演 2】 16:00~17:00

演題:「胃癌のゲノム病理学」

講師: 石川俊平 (東京医科歯科大学難治疾患研究所 ゲノム応用医学研究部門ゲノム病理学)

座長: 関根茂樹 (国立がん研究センター中央病院 病理科)

【休憩】 17:00~17:05

【一般演題③】 17:05~17:25

5. 座長: 松本俊治 (順天堂大学練馬病院 病理診断科)
「中性脂肪蓄積心筋血管症の疾患概念と病理」
演者: 羽尾裕之 (日本大学医学部 病態病理学系 人体病理学分野)

【閉会挨拶】 17:25

【懇親会】 17:40 ~ 場所: 食堂「あすなろ」

今後の関東支部会の学術集会予定は以下の通り:

第 79 回日本病理学会関東支部学術集会・平成 30 年度総会

日時: 平成 30 年 7 月 7 日 (土)

会場: 日本医科大学教育棟 2 階講堂 (東京都文京区千駄木 1-1-5)

世話人: 日本医科大学解析人体病理学 清水 章 先生

病理学サマーセミナー 2018 夏の学校

日時: 平成 30 年 8 月 26 日 (日)

会場: 都立駒込病院 別館 1 階 講堂

世話人: 都立駒込病院 比島恒和 先生

内藤善哉支部長、北川昌伸副支部長のご指導の下、無事に会を終えることができ、篤く御礼申し上げます。また、会の運営にあたり丁寧なご支援をいただいた幹事の日本医科大学 統御機構診断病理学准教授 大橋隆治先生、関東支部事務局の小野祐子様へ深謝申し上げます。さらに、本集会の準備・運営に関わった当講座スタッフ、医学研究科学生、医学科学生にも感謝申し上げます。

-中部支部-

中部支部会報編集委員 浦野 誠

第 80 回日本病理学会中部支部交見会

日時: 2017 年 12 月 23 日 (土・祝)

会場: 名古屋大学

世話人: 公立陶生病院 鈴木康彦先生

参加者: 218 名

【症例検討】

1445 JA 厚生連海南病院 石川 操

70 代 男性 肺 多発血管炎性肉芽腫症 (GPA)

GPA に腺癌と多発 tumorlet を合併した剖検例。GPA と肺癌合併例の文献的考察が示された。背景にみられた気管支拡張症と GPA および腫瘍性変化の関係についての討論がなされた。

1446 大同病院 小島伊織

60 代 男性 肺 Ciliated muconodular papillary tumor (CMNPT)

粘液と繊毛を有する細胞が基底細胞の介在を伴い乳頭状増殖する CMNPT の迅速材料。腺癌とする投票も多かった。迅速時の診断名の伝え方、良悪性の位置づけについて討論がなされた。

1447 福井県立病院 小上瑛也

70 代 男性 肺 Lymphomatoid granulomatosis (LYG) grade 3

両肺に多発性結節が形成され、壊死と多彩な炎症細胞浸潤からなっていた。種々の鑑別診断が考慮されたが浸潤リンパ球に異型がみられ CD20、CD30、EBER-ISH 陽性、IgH 遺伝子再構成が確認され、LYG grade 3 (EBV⁺ diffuse large B cell lymphoma) とみなされた。

1448 聖隷三方原病院 八木春奈

70 代 男性 縦隔 Micronodular thymic carcinoma with lymphoid stroma

リンパ濾胞形成を伴う胸腺腫瘍で核異型に富む CD5 陽性上皮細胞の増殖がみられた。本組織型の成り立ちについて、成熟樹状細胞とランゲルハンス細胞の役割が考察された。

1449 静岡県立総合病院 村松 彩

70 代 男性 胸腺

Adenocarcinoma showing signet-ring cell feature of the thymic gland

まれな印環細胞様形態をとった胸腺癌例。胞体内に粘液の存在や免疫染色性から乳腺小葉癌や皮膚癌の転移の可能性について討論になった。

1450 信州大学医学部附属病院 松本有機

40 代 男性 胸腺 MALT lymphoma of thymus

多房性嚢胞を形成した胸腺病変。投票は一致していた。IgH 再構成クローナリティが確認された。胸腺腫や multilocular thymic cyst との鑑別点が述べられた。胸腺嚢胞の形成メカニズムについてコメントがあった。

1451 静岡県立静岡がんセンター 草深公秀

70代 男性 甲状腺

Papillary carcinoma, mucin-producing, columnar cell variant

粘液産生を伴う被包性乳頭癌像で、TTF-1、PAX8、MUC1 陽性を呈していた。粘液癌、粘表皮癌等が鑑別に考慮されたが FISH で *ETV6*、*MAML2* の分離シグナルは陰性であった。

1452 愛知医科大学 露木琢司

30代 女性 甲状腺 Physiologic C-cell hyperplasia

腺腫様甲状腺腫切除時に偶発的に発見された生理的 C 細胞過形成例。血清カルシトニンが軽度高値を呈していた。RET 遺伝子変異に伴う腫瘍性 C 細胞過形成との違いが解説された。

1453 富山県立中央病院 内山明央

60代 女性 皮膚 Primary cutaneous CD4-positive small/medium T-cell lymphoproliferative disorder (PCSM-TLPD)

Follicular helper T cell 由来とされるまれな皮膚リンパ増殖性疾患例。偽リンパ腫とする投票も多かった。TCRβ 鎖遺伝子再構成が認められた。顔面頸部に好発し単発結節を形成する特徴的な臨床像が示された。

1454 福井大学医学部附属病院 山口愛奈

80代 女性 頭頸部

Malignant peripheral nerve sheath tumor (MPNST) arising from ganglioneuroma 神経節細胞の介在を伴い粗密構造からなる腫瘍性変化で、核異型を伴う紡錘形細胞増殖像を認めた。既往の皮膚癌に対する放射線照射の影響が考慮された。投票結果は一致していた。

1455 聖隷浜松病院 太田 翔

30代 男性 結腸

Mesenteric inflammatory veno-occlusive disease (MIVOD)

大腸全般にわたる高度のびらん、壊死性病変で、広範囲に静脈内に器質化血栓形成がみられた。臨床的、病理学的に潰瘍性大腸炎との鑑別が討論になった。

1456 鈴鹿中央総合病院 馬場洋一郎

40代 男性 大腸

Clear cell adenocarcinoma with tubular adenoma component

淡明細胞の出現を伴った下行結腸の隆起性病変。腺腫とする投票が多かった。細胞の淡明化と良悪性の鑑別、化生性変化との異同が討論された。

1457 市立砺波総合病院 奥野のり子

90代 男性 回腸 Angiosarcoma

早期発見、切除された小腸血管肉腫例。腫瘍細胞は CD31、Factor-VIII 陽性であった。既報告例についての文献的考察と腫瘍随伴リンパ球浸潤についての考察がなされた。

1458 金沢大学附属病院 阪口真希

50代 男性 腹壁 Nodular fasciitis (NF)

投票は分かれ、低悪性な肉腫とする意見も多かった。深在発生で被膜を有する NF 例は診断に注意が必要とのコメントがなされた。FISH での *USP6* の分離シグナルが示され、*USP-induced neoplasm* としての NF と aneurysmal bone cyst についての知見が述べられた。

1459 藤田保健衛生大学病院 島 寛太

60代 男性 肝臓 Adult hepatoblastoma, mixed epithelial and mesenchymal type with teratoid features

腺様・ロゼット様上皮構造、紡錘形細胞、未分化成分、軟骨構造の混在する境界明瞭な成人肝腫瘍例。通常型癌腫成分要素に乏しく肝芽腫が考えられたが癌肉腫とする投票も多く、成人例における異同と鑑別が討論となった。

1460 諏訪赤十字病院 佐藤 碧

70代 女性 肝臓 Reactive lymphoid hyperplasia (RLH)

リンパ濾胞形成、小型リンパ球、形質細胞浸潤からなる肝結節。MALT リンパ腫の投票が多かった。Ig 重鎖は polyclonal で、背景肝には primary biliary cholangitis が確認された。肝の RLH についての詳細な文献的考察がなされた。

1461 岐阜大学医学部附属病院 金山知弘

20代 男性 骨 Massive osteolysis/Gorham-Stout disease (GSD)

進行性骨溶解を呈し、髄内が血管およびリンパ管組織に置換されるまれな GSD 症例。推測されている病態の解説と本例についての薬物療法の詳細な組織学的効果が示された。

1462 名古屋大学医学部附属病院 奥村結希

60代 男性 腎臓 Renin producing tumor (juxtaglomerular cell tumor)

高血圧治療中患者の黄色調境界明瞭な腎腫瘍で好酸性細胞からなっていた。上皮マーカー陰性であり難解症例であった。レニンの免疫染色に陽性を呈した。

1463 金沢医科大学病院 相川あかね

乳幼児 女性 後腹膜 Embryonal rhabdomyosarcoma in teratoma (teratoma with somatic-type malignancy)

NF1 患者に発生した腫瘍で、未分化な腫瘍成分の一部に横紋筋分化がみられた。MPNST (malignant Triton tumor) か奇形腫内に発生した横紋筋肉腫かの解釈が難しかった。NF1 と奇形腫、横紋筋肉腫との関連が考察された。

1464 一宮市立市民病院 中島広聖

60代 女性 子宮

Malignant mixed mesonephric tumor (mesonephric carcinosarcoma)

多彩な組織像を呈し、軟骨間質を伴う子宮腫瘍例。中腎管遺残から発生するとされるまれな組織型で ER、PgR、GATA-3 が陽性を呈した。合わせて新しい中腎「様」腺癌の概念が紹介された。

【第 79 回交見会・中部支部学術奨励賞受賞式】

学術奨励賞 カテゴリー A (専門医試験合格前)

熊谷泉那先生 (金沢医科大学病院)

渡部直樹先生 (岐阜市民病院)

佐藤 碧先生 (信州大学医学部附属病院)

学術奨励優秀発表賞

笠島里美先生 (金沢医療センター)

次回学術集会・夏の学校

第 81 回日本病理学会中部支部交見会

日 時：2018 年 7 月 7 日 (土)～8 日 (日)

会 場：AOSSA 8F 福井県民ホール

世話人：小林基弘先生 (福井大学)

夏の学校 2018 in 富山 (学部学生、研修医、新人病理医対象)

日 時：2018 年 8 月 25 日 (土)～26 日 (日)

会 場：グリーンビュー立山 (富山県中新川郡立山町)

世話人：井村穰二先生 (富山大学)

第 82 回日本病理学会中部支部交見会

日 時：2018 年 12 月 15 日（土）
会 場：名古屋大学医学部附属病院講堂（名古屋市）
世話人：伊藤 誠先生（刈谷豊田総合病院）

-- 近畿支部 -----

近畿支部会報編集委員 桑江 優子

I. 活動報告

日本病理学会近畿支部第 80 回学術集会在下記の内容で開催されました。（検討症例、画像等につきましては近畿支部ウェブサイト（jspk.umin.jp/）にて閲覧可能です。アカウント・パスワードの必要な方は近畿支部事務局（jspk-office@umin.ac.jp）までお尋ね下さい）。

開催日：2018 年 2 月 3 日（土）
会 場：大阪市立総合医療センター さくらホール
世話人：滋賀医科大学 九嶋 亮治 先生
モデレーター：京都大学 南口早智子 先生
テーマ：卵巣腫瘍

症例検討（午前）

- 920 胃潰瘍性病変の 1 症例
塩原 正規 先生、他（滋賀医科大学医学部附属病院 病理診断科、他）
- 921 Human immunodeficiency virus 抗体陽性患者にみられたリンパ節病変
石井 真美 先生、他（大阪市立総合医療センター 病理診断科）
- 922 十二指腸腫瘍の 1 例
内山 智子 先生、他（奈良県立医科大学 病理診断学講座）
- 923 月経周期と関連する再発性気胸の 1 例
高橋 祐一 先生、他（神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科、他）
- 924 子宮体部腫瘍の 1 例
中川 涼太 先生、他（京都大学医学部附属病院 病理診断科）
- 925 術前に卵巣痛を疑われた骨盤内病変の 1 例
大谷 知之 先生、他（奈良県立医科大学附属病院 病理診断科、他）

特別講演

『上皮性卵巣腫瘍の組織分類と診断の実際』
清川 貴子 先生（東京慈恵会医科大学病理学講座・同附属病院病理部）

病理講習会

1. 漿液粘性性腫瘍 seromucinous tumors
森谷 鈴子 先生（滋賀医科大学医学部附属病院 病理部）
2. 卵巣上皮性腫瘍の術中迅速診断
和仁 洋治 先生（姫路赤十字病院 病理診断科）

教育講演

『ポストゲノム時代の卵巣腫瘍の病理診断～本当に有用な遺伝子異常検索は何か～』
前田 大地 先生（秋田大学 器官病態学）

II. 今後の活動予定

第 81 回学術集会在下記の内容で開催されます。

開催日：2018 年 5 月 12 日（土）
開催場所：神戸大学医学部大講義室（神戸大学医学部外来診療棟 6 階）
世話人：神戸大学 横崎 宏 先生
モデレーター：神戸大学 全 陽 先生
テーマ：肝胆膵疾患

午前：症例検討
午後：（予定）
特別講演 1
『胆道腫瘍の分子病理』
全 陽 先生（神戸大学 病理ネットワーク学）
病理講習会
1. 非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）
伊倉 義弘 先生（高槻病院 病理診断科）
2. 膵腫瘍の最近のトピックス
安川 覚 先生（京都府立医科大学 人体病理学）
特別講演 2
『肝腫瘍の病理診断で求められること』
相島 慎一 先生（佐賀大学 診断病理学分野）

-- 中国四国支部 -----

中国四国支部会報編集委員 串田 吉生

A. 開催報告

日本病理学会中国四国支部第 125 回学術集会在下記の内容で開催されました。発表スライドや投票結果は（<http://csp.umin.ne.jp/pctindex.htm>）から見る事が出来ます。

開催日：平成 30 年 2 月 17 日（土）
場 所：広島大学医学部第 5 講義室
世話人：広島大学大学院医歯薬保健研究科分子病理学教授
安井弥先生

特別講演

『軟部腫瘍の病理とゲノム解析用病理検体の取扱い』
九州大学大学院医学研究院形態機能病理学教授 小田義直先生

演題番号 / タイトル / 出題者（所属） / 出題者診断 / 最多投票診断
S2702 / 胃ポリポシス / 苗村智（姫路赤十字病院病理診断科） /
Gastric adenocarcinoma associated with fundic gland polyposis / concord
S2703 / 肝腫瘍（剖検例） / 藤原恵（広島赤十字・原爆病院病理診断科） /
Hepatoblastoma / Carcinosarcoma
S2704 / 上行結腸病変 / 服部結（広島大学大学院医歯薬保健学研究科分子病理学） / Ganglioneuroma with inverted hyperplastic polyp /
Hamartomatous polyp
S2705 / 卵巣病変 / 井上耕佑（香川大学医学部附属病院病理診断科） /
Mesothelial hyperplasia / Adenomatoid tumor

S2706 / 両側頬粘膜下部腫瘍 / 鯨岡聡子 (徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔分子病態学分野) / Foreign body granuloma / Fungus infection

S2707 / 真皮内腫瘍 / 黒田直人 (高知赤十字病院病理診断科) / Squamous cell carcinoma / Sebaceous carcinoma

S2708 / 左頸部病変 / 小西徹 (倉敷中央病院教育研修部) / Papillary carcinoma of thyroid and ectopic hamartomatous thymoma / Papillary carcinoma of thyroid

S2709 / 上顎骨腫瘍 / 小川郁子 (広島大学病院口腔検査センター) / Primordial odontogenic tumor / Ameloblastic fibroma

S2710 / 肺腫瘍 / 大平咲 (高知医療センター病理診断科) / Myoepithelial carcinoma / Solitary fibrous tumor

S2711 / 肺病変 / 松本学 (高知医療センター病理診断科) / Benign notochordal cell tumor / PEComa

S2712 / 胎児ジストレス / 濱崎友洋 (岡山大学医学部5年生) / Fetal thrombotic vasculopathy and transient abnormal myelopoiesis / Fetal thrombotic vasculopathy

S2713 / 乳腺腫瘍 / 神原貴大 (県立広島病院初期臨床研修医) / Osteosarcoma / concord

S2714 / 肺腫瘍 / 小田晋輔 (鳥取県立中央病院病理診断科) / Bronchial epithelial dysplasia / Adenocarcinoma

S2715 / 肺腫瘍 / 櫛谷桂 (広島大学大学院医歯薬保健学研究科病理学) / Fetal adenocarcinoma, high grade / concord

S2716 / 前縦隔腫瘍 / 齊藤彰久 (呉医療センター・中国がんセンター病理診断科) / Thymic follicular hyperplasia / concord

S2717 / 副腎腫瘍 / 織田麻琴 (広島大学病院病理診断科) / Adrenocortical oncocytoma / concord

S2718 / 脊椎腫瘍 / 松本穰 (徳島大学病院病理部) / Chordoma / concord

S2719 / 左大腿軟部腫瘍 / 木村相泰 (山口大学大学院医学系研究科分子病理学) / Myxofibrosarcoma / concord

S2720 / 縦隔の小型円形細胞腫瘍の一例 / 田村麻衣子 (岡山赤十字病院病理診断科) / NUT (midline) carcinoma / Myeloid sarcoma (granulocytic sarcoma)

S2721 / 前腕部皮下腫瘍 / 中山宏文 (JR広島病院診療部臨床検査科・教育研修部) / Leiomyosarcoma / Malignant peripheral nerve sheath tumor

-- 九州・沖縄支部 -----

九州・沖縄支部会報編集委員 大石 善文

第361回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時：2018年1月20日(土) 13:00~17:00

場所：名桜大学 多目的ホール

世話人：名桜大学 大城真理子先生

沖縄県立北部病院 仲西貴也先生

北部地区医師会病院 松本美幸先生

参加人数：67名

スライドコンファレンスの途中で下記の学術講演が行われました。

演題：「明日から役立つ口腔疾患の病理診断」

演者：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔病理解析学分野
仙波伊知郎 教授

第361回スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名 / 発表者 / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 出題者診断 / 投票最多診断

座長：仲里 巖

1. 中耳腫瘍 バーチャル / 草場敬浩 / 大分大学医学部診断病理学講座 / 50代 / 女性 / Solitary fibrous tumor / Solitary fibrous tumor
2. 胎盤病変 / 梅崎 靖 / 長崎医療センター病理診断科 / 20代 / 女性 / Acute villitis and intervillitis by Listeria infection / Villitis resulting from Listeria infection
3. 右心房内腫瘍 / 後藤優子 / 鹿児島大学病理学分野 / 50代 / 女性 / Pedunculated ball thrombus / Organizing thrombus

座長：熱海恵理子

4. 肺病変 / 甲斐敬太 / 佐賀大学医学部附属病院病理診断科 / 60代 / 男性 / Lymphomatoid Granulomatosis, grade 3 / Methotrexate-associated lymphoproliferative disorder
5. 胃腫瘍 / 玉城剛一 / 琉球大学大学院医学研究科腫瘍病理学講座 / 60代 / 男性 / Invasive micropapillary adenocarcinoma / Micropapillary adenocarcinoma
6. 小腸腫瘍 / 下釜達朗-金城満 / 製鉄記念八幡病院 / 70代 / 女性 / Hepatoid adenocarcinoma of the small intestine / Hepatoid adenocarcinoma

座長：加留部謙之輔

7. 肝腫瘍 / 屋嘉比智麻紀-加留部謙之輔 / 沖縄県立中部病院-琉球大学細胞病理学講座 / 40代 / 女性 / Hepatic neuroendocrine tumor (gastrinoma) / Neuroendocrine tumor
8. 胆嚢ポリープ / 渡辺次郎 / 産業医大第二病理 / 50代 / 女性 / Adenoma, pyloric gland type / Adenoma
9. 胆嚢腫瘍 / 猪山賢一 / JCHO 熊本総合病院 病理診断科 / 80代 / 男性 / Mixed tubular adenocarcinoma and intravascular large B cell lymphoma (IVLBCL) / Adenocarcinoma

座長：松山篤二

10. 膝腫瘍 バーチャル / 内田竜二-浜田義浩 / 福岡大学医学部病理学教室 / 60代 / 女性 / Anaplastic carcinoma with osteoclast-like giant cells / Undifferentiated carcinoma with osteoclast-like giant cells
11. Pancreatic mass / 久保山雄介 (研修医)-古賀 裕 / 九州大学形態機能病理 / 70代 / 男性 / Follicular pancreatitis / Castleman's disease
12. 右乳腺腫瘍 / 牛草 健-安倍邦子 / 長崎大学病院病理診断科 / 80代 / 女性 / Pleomorphic adenoma arising in intraductal papilloma / Pleomorphic adenoma

座長：太田敦子

13. 子宮内膜病変 / 松下能文 / 千鳥橋病院 病理診断科 / 50代 / 女性 / Papillary proliferation of endometrium, complex (Papillary mucinous metaplasia) / Endometrial polyp
14. 甲状腺腫瘍 / 渡辺春香 (研修医)-伊東正博 / 長崎医療センター病理診断科 / 60代 / 女性 / Papillary carcinoma with fasciitis (fibromatosis)-like stroma / Papillary carcinoma with fasciitis-like stroma
15. 右腎部腫瘍 / 河野真司 / 原三信 / 50代 / 女性 / Renal capsular sclerosing PEComa / Angiomyolipoma

座長：仲田典広

16. 皮膚病変 / 本田由美 / 熊本大学医学部附属病院 病理診断科 / 10未満 / 男性 / Epidermal nevus with epidermolytic hyperkeratosis / Epidermal nevus
17. 脳腫瘍 / 福島 剛 / 宮崎大 腫瘍・再生病態学分野 / 10代 / 女性 / Diffuse midline glioma, H3 K27M-mutant / Glioblastoma

第362回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時：2018年3月10日（土）13:00～17:00

場所：国立病院機構長崎医療センター人材育成センター 1F

世話人：国立病院機構長崎医療センター病理診断科

伊東正博先生

参加人数：108名

第362回スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名 / 発表者 / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 出題者診断 / 投票最多診断

座長：安倍邦子

1. 鼻腔内腫瘍 / 大栗伸行 / 宮崎大学 構造機能病態学 / 50代 / 男性 /
Olfactory neuroblastoma with ganglioneuroblastic differentiation /
Teratocarcinosarcoma
2. 喉頭腫瘍 / 峯崎晃充-相島慎一 / 佐賀大学医学部附属病院 病因病態科学 診断病理学分野 / 80代 / 男性 / Spindle cell carcinoma /
Spindle cell (squamous cell) carcinoma
3. 右耳下腺腫瘍 / 岩村隆二 / 産業医科大学 第一病理学 / 60代 / 女性 /
Mucoepidermoid carcinoma with acinic cell differentiation and pigmented cells / Mucoepidermoid carcinoma
4. 甲状腺腫瘍 / 渡辺次郎 / 産業医大第2病理 / 70代 / 女性 / Noninvasive follicular thyroid neoplasm with papillary-like nuclear features (NIFTP) /
Papillary carcinoma

座長：古賀 裕

5. 縦隔腫瘍 / 中島裕康-竹下盛重 / 福岡大学医学部病理学講座 / 10代 / 女性 /
Mediastinal lymphoepithelioma-like carcinoma /
Lymphoepithelioma-like carcinoma
6. 左肺腫瘍 / 丸塚浩助 / 宮崎県立宮崎病院 病理診断科 / 70代 / 男性 /
Invasive adenocarcinoma, post chemotherapy, with DIP-like features /
alveolar entrapment / Invasive adenocarcinoma of the lung with prominent discohesive cells (post chemotherapy)

座長：西田陽登

7. 胸膜腫瘍 / 安里嗣晴 / 熊本大学医学部附属病院病理診断科 / 病理診断科 / 50代 / 男性 / Epithelioid hemangioendothelioma / Malignant mesothelioma
8. Gastric submucosal tumor / 保利喜史 / 九州大学形態機能病理 / 50代 / 女性 / Perivascular epithelioid cell tumor (PEComa) /
Gastrointestinal stromal tumor (GIST)

座長：有馬信之

9. 肝腫瘍性病変 / 伏見文良 / 九州中央病院 病理診断科 / 40代 / 男性 /
Mesenchymal hamartoma / Hamartoma
10. 乳腺腫瘍 / 水谷謙一-白濱 浩 / 鹿児島大学病理学分野 - 今給黎総合病院病理診断科 / 50代 / 女性 /
Intraductal papilloma with atypical squamous metaplasia /
Adenosquamous cell carcinoma

座長：甲斐敬太

11. 腎腫瘍 / 福島 剛 / 宮崎大学 腫瘍・再生病態学分野 / 40代 / 男性 /
Mucinous tubular and spindle cell carcinoma /
Chromophobe renal cell carcinoma
12. 前立腺病変 / 河野真司 / 原三信 / 70代 / 男性 /
Solitary fibrous tumor with malignant potential / Solitary fibrous tumor
13. リンパ節病変 / 黒濱大和 / 長崎大学原研病理 / 60代 / 女性 /
Methotrexate associated lymphoproliferative disorders /
Methotrexate associated lymphoproliferative disorders

座長：杉田保雄

14. 脳腫瘍 / バーチャル / 林 洋子 / 長崎大学-佐世保市総合医療センター / 10未満 / 男性 / Atypical teratoid / rhabdoid tumor / Atypical teratoid /
rhabdoid tumor
15. 脳腫瘍 / 小山雄三 / 大分大学医学部診断病理学講座 / 6歳 / 女性 /
Astroblastoma / Astroblastoma
16. 脳腫瘍 / 神尾多喜浩 / 済生会熊本 / 70代 / 男性 /
Hemangioblastoma with metastatic prostatic carcinoma / Hemangioblastoma

=====
病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。病理専門医部会会報編集委員会：柴原純二（委員長）、望月 眞（副委員長）、深澤雄一郎（北海道支部）、長谷川剛（東北支部）、九島巳樹（関東支部）、浦野 誠（中部支部）、桑江優子（近畿支部）、串田吉生（中国四国支部）、大石善丈（九州沖縄支部）
=====